

福島新エネ社会構想における 再生可能エネルギー利用 水素プロジェクト始動!

ふくしま再生可能エネルギー産業フェアでPR

11月8日と9日、郡山市のビッグパレットふくしまにおいて、「ふくしま再生可能エネルギー産業フェア (REIFふくしま) 2017」が開催され、浪江町で実施される再生可能エネルギー利用水素プロジェクトが、株式会社東芝のブースで紹介されました。

また、水素を燃料とする燃料電池自動車「MIRAI」がトヨタのブースで展示されるとともに、「燃料電池自動車MIRAIの開発と水素社会実現に向けたチャレンジ」と題してチーフエンジニア田中義和氏の講演やMIRAIの試乗会も開催されました。



株式会社東芝のブースの状況



トヨタの水素自動車：MIRAI

棚塩産業団地

棚塩産業団地では、2020年度までの段階的な供用開始を目指して、今年の春に造成工事に着工予定です。

【棚塩産業団地の整備計画】

- 水素製造拠点施設 (約22ヘクタール)
- 福島ロボットテストフィールド滑走路 (約5ヘクタール)
- 産業用地エリア (約11ヘクタール)



棚塩産業団地イメージ図

※各イメージ図は、今後変更となる場合があります。



問 産業振興課産業創出係 TEL 0240(34)0248



水素プラント完成イメージ

このプロジェクトは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術開発機構 (NEDO)※が実施する事業の一環として、東芝エネルギーシステムズ株式会社、岩谷産業株式会社および東北電力株式会社が事業主となり、棚塩産業団地内に1万キロワット級の世界最大級の水素製造装置を備えた水素エネルギーシステムを構築し、2020年度中に運用を開始します。ここで製造した水素は、東京オリンピック・パラリンピックで活用されることが見込まれています。

※国立研究開発法人新エネルギー・産業技術開発機構 (NEDO)とは、日本最大級の公的研究開発マネジメント機関として、経済産業行政の一翼を担い、「エネルギー・地球環境問題の解決」および「産業技術力の強化」の二つのミッションに取り組む国立研究開発法人です。